



提供：2025年日本国際博覧会協会



提供：2025年日本国際博覧会協会

講演者・パネリスト紹介

谷岡 一郎 大阪商業大学 学長

1956年大阪生まれ。1997年から大阪商業大学学長。70年大阪万博には中学生の時に何度も通った。特に印象が深かったのは、オランダ館で、エッシャーのメタモルフォーゼⅢ（1968年の作品）を初めて見て、その前で一時間以上いたことを覚えている。今回のオランダ館の案内役はウサギの「ミッフィー」。これも中々のもの。それ以外にも紹介したいパビリオンなどは、前回も今回も少なくないが、可能ならパネルディスカッションで言及するつもりである。万博もさることながら、すぐ北に予定されているIR（統合型リゾート）も含め、新しいタイプのエンターテインメントが大きな起爆力を持つことを紹介したい。

加藤 司 大阪商業大学大学院 地域政策学研究科教授

東北の片田舎で育った私にとって、万博はまったく無縁の存在だった。当然、70年大阪万博にも行っていない。だが、今回だけはどうしても訪れたいパビリオンがあった。イタリア館である。しかしイタリア館は一番人気で、私が行った日には8時間も並ぶ人がいて入館をあきらめた。私の専門はイタリア経済そのものではないが、商業や製造業による地域経済の活性化を考える上で、「国滅びて、地方都市栄える」とも言われるイタリアは示唆に富んでいる。今回の万博は大阪経済再生の起爆剤となり得るのか。地域や地方が再生していくためには何が必要なのか。万博を通して、あらためて考える機会としたい。

谷内 正往 大阪商業大学 総合経営学部商学科教授

1965年兵庫県生まれなので、70年大阪万博はリアルタイムでは見ていない。今年の大阪万博は夜間を中心に何度か見に行き、円形リングに感動し、ドローンショー、コモンズを中心に各国のパビリオンを楽しんだ。私の専門は商業史で、大阪の鉄道と経営者、地域、商業施設（遊園地含む）の関係を歴史的に研究している。今回は集客装置としての万博を、鉄道事業の兼業との関係で見つめていきたい。主要業績としては『戦前大阪の鉄道とデパート』（東方出版、2014年、鉄道史学会第6回住田奨励賞）、『日本の百貨店史』（加藤諭と共著、日本経済評論社、2018年）などがある。

石上 敏 大阪商業大学大学院 地域政策学研究科教授

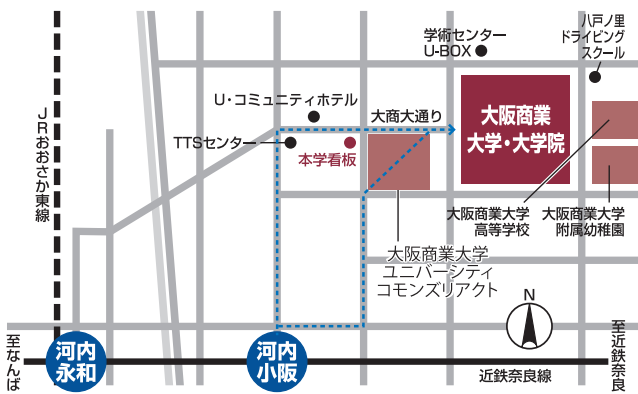
静岡県に住んでいた小学生の頃70年大阪万博に2回入場して以来の万博マニアとして、博覧会資料の収集にいそしんできた。とはいえその後の沖縄海洋博もつくば科学博も花博も愛・地球博も訪れる機会がなく、ただただ資料や書籍を通して学び、楽しんできた。今回目と鼻の先で万博が開催されたことに心躍りを抑えつつ、仕事の合間に会場を訪れては、ひたすら「よかったこと・よくなかったこと」の両面を観察し、ノートに取り続けてきた。来場25回、ノート30冊の蓄積の中から、「いいこと」だけでも、「悪いこと」だけでもない万博の姿について問題提起をし、考察を続けていきたいと考えている。

大阪商業大学大学院 公開講座 申込書

参加申込については表面をご覧ください

ふりがな					性別	男・女
申込者名						
年代	☐ ~20代	☐ 30代	☐ 40代	☐ 50代	☐ 60代	☐ 70代~
ご住所	〒					
ご連絡先	TEL			FAX		
	E-mail					
今後の講座等のご案内について		☐ DMの送付を希望する ☐ DMの送付を希望しない				
職業	☐ 会社員 ☐ 会社役員 ☐ 自営業 ☐ 公務員・団体職員 ☐ 士業 ☐ 教職員 ☐ 学生 ☐ その他（ ）					

近隣地図



交通のご案内

- ◎近鉄奈良線 河内小阪駅（準急・区間準急・普通停車）下車、北東へ徒歩約5分。
- ◎JRおおさか東線 JR河内永和駅より徒歩約12分。

※ご記入いただきました個人情報につきましては、ご本人の同意がない限り、本学主催の講座等のご案内以外の目的に使用することはありません